



東近江市民クラブ
百畳敷大風よ大空へ

鈴木 則彦



Q 百畳敷東近江大風の飛場について、

①今回の昭和100年慶祝大風の制作に参加された方の意見や感想は。

②保存会をバックアップし、大風揚げを行う考えはあるか。

A ①参加者からは「こんなに大きな風の制作に関わられてうれしい」「一つ一つの作業に達成感があった」などの感想がありました。初めて参加した市職員からは「技術や伝統を引き継いでいく大切さを感じた」との意見があり、あらためて大風が多くの人たちに支えられていることを認識しました。

②大風は、制作から飛場までが一連の民俗文化であることから、飛場についても積極的に協力し、実現・成功に向けて保存会を支援していきます。

Q 第3期中心市街地活性化基本計画の策定について、

①策定に向けて、事業者などと



100畳敷東近江大風「慶祝 昭和100年」

の意見交換の場はあるのか。

②延命公園再整備や八日市駅東西連絡通路整備事業は第3期計画にも反映される予定か。

A ①中心市街地に関する事業者や若者などの意見を聞く機会を設けていきます。

②第1期から計画している事業であり、本市のさらなるにぎわい創出のため重要な事業であることから、引き続き計画に位置付け、整備を進めていきます。



東近江市民クラブ
蛍光灯製造中止への市の対応は

澤居 寛明



Q 「水銀に関する水俣条約」に基づいた令和9年末の蛍光灯

照明器具の製造終了に向け、今後LED照明器具の在庫不足や交換作業の増加による工事費の高騰が予想される。

市が保有する公共施設はおよそ300施設に上り、学校や図書館、スポーツ施設など、多くの蛍光灯を使用する施設では、計画的な更新が求められる。

市内公共施設における蛍光灯の総数を把握しているか。また、期限を定めたLED化計画を作成すべきでは。

A 蛍光灯の管理は施設所管課で実施しており、全体で総量を把握していません。施設所管課が各々の施設利用状況を踏まえ、改修などの必要性を検討した上で順次LEDに交換する予定であり、計画の作成は考えていません。

Q 河川敷にあるグラウンドゴルフ場のトイレ環境についての



すこやか杜グラウンド・ゴルフ場のトイレ

現状認識は。また、トイレの改善計画や整備する考えは。

A 河川区域を活用した施設では、川の流れを妨げるような建物などの設置には多くの制約があるため、移動式トイレを設置していただきます。今後も快適にご利用いただけるよう定期的な清掃と見回りに努めていきます。

トイレの改善計画や整備については、メンテナンスと計画的な更新に努めていきます。



東近江市民クラブ
通学路の安全確保について

西澤 由男



Q 子どもたちが利用する通学路ではまだまだ危険箇所が存在するが、安全確保について、

①歩行者の安全対策として、グリーンベルトの幅員確保のため、溝蓋の設置をはじめ段差解消や障害物撤去をすべきでは。

②自転車通行の安全確保は。

③高校生が自転車で安全に行き来できるように、歩道や自転車道などの道路環境整備は、公共交通網が十分でない地域にとって最も大切な視点であり、最優先のインフラ整備だと考えるが見解は。

④公共交通網の充実と既存の道路・新設バイパスに歩道設置することは、どちらがコストパフォーマンスに優れ、現実的か。

A ①利用者の転落防止や円滑な通行につながる対策については、その都度自治会や占用者と協議を行っています。

②県、警察、学校と連携



危険な通学路（川合町付近）

し、安全な通行について呼び掛けていきます。

③歩行者などの安全確保は重要であるが認識していますが、歩道などの整備には、費用や時間を要するため、その地域に応じた安全対策を迅速に講じるよう努めています。

④公共交通網整備と道路整備では、コストパフォーマンスを比較することは一概にできません。歩行者・自転車の利用状況を踏まえ、費用対効果を勘案しながら総合的に整備を進めます。



東近江市民クラブ
これからの地域のあり方とは

山本 直彦



Q 急激に進む少子化の現状と今後の見通しについて、

①直近5年間で出生数が一桁となっている小学校区は。

②直近5年間の愛東南および愛東北小学校区内の出生数は。

③現時点で教育委員会の見解は。

④子ども未来部の見解は。

A ①市原、山上、愛東南、愛東北、湖東第一、能登川北小学校区です。

②令和2年度は南小学校区（以下、南）16人・北小学校区（以下、北）14人、3年度は南12人・北13人、4年度は南6人・北6人、5年度は南12人・北10人、6年度は南6人・北4人です。

③今後現れてくる小規模校区の多くは、隣接する校区も同様の課題を抱えており、単純な統合だけでご理解をいただくことは難しく、地域振興そのものに関わってくることから、地域の皆様の思いもしっかり受け止めなければならぬと考えています。子どもたちにとって、より望



ましい教育環境をどのように確保するのか、丁寧な対話を重ねながら、将来にわたり持続可能な学校の姿をともに考えていきたいと思っています。

④全市的な少子化や保育ニーズの変化により、幼稚園単独での運営が難しくなっています。将来的には認定こども園化も視野に入れながら子どもが健やかに育つ環境づくりを進めていきたいと考えています。